

相模原市の森林は、市民にあまり知られておらず、木材は使われておらず、結果としてあまり身近に感じられていません。このような現状を踏まえると、今後、市内の森林資源を有効に活用するためには、森林と市民の「かかわり」を新たに創造していくことが重要であると考えられます。

そこで、本ビジョンでは、まず市民が市内の森林について「知って」、木材を「使って」、その結果、森林が市民一人ひとりにとって「身近になる」ことを目指します。

森林の存在が市民にとって身近なものとなることにより、森林と市民の間にはさまざまなかかわりが育まれるものと期待されます。さらに、新たに生まれた「人と森林のかかわり」を通じて、相模原市の森林環境は、次第に「いきいきとした森林」へと変化を遂げるものと期待されます。

「いきいきとした人と森林のかかわり」と「いきいきとした森林」は、いずれも「知って、使って、身近になる」という状態が実現されることにより達成される成果です。しかしながら、人間の社会経済活動のあり方に比べて森林の生態や景観はよりゆっくりと変化することから、本ビジョンでは「いきいきとした人と森林のかかわり」については20年後を、「いきいきとした森林」については50年後を目標時点として将来像を描くこととします。

20年後の将来像となる「いきいきとした人と森林のかかわり」とは次のようなものです(図表10)。

chapter.3

相模原市の目指す森林の将来像

図表 10: 「いきいきとした人と森林のかかわり」の将来像(20年後)※5

■森林についての情報が豊富にあり、人が森林とかかわりやすくなっています

- (例)
- 市内の森林に関する情報をいつでも簡単に知ることができる。
 - 森林に関する講習会等が定期的に行われている。
 - 市民ボランティアの活動がさかんに行われている。



■次世代の担い手である子どもたちが、森林と共に育まれています

- (例)
- 大人と子どもと一緒に森林で自然体験活動をしている。
 - 林間学校など体験型環境教育への参加者が増えている。



■森林が、市民みんなの集う場所になっています

- (例)
- 登山・観光・生きもの観察・スポーツなど多様な活動の場となっている。
 - 企業やNPOなど協働して森林を利用する多様な主体が存在している。

■森林の恵みであるさまざまな資源が、市民の生活を彩っています

- (例)
- 建築用材や内装材として津久井産の木材が使われている。
 - 学校、役所などの公共建築に津久井産木材が利用されている。
 - 身の回りに津久井産の木材を素材とする木工品がある。
 - 薪・ペレットなどの木質バイオマスの熱源としての利用が広がっている。



■森林産業が市内の経済基盤の一翼を担っています

- (例)
- 森林産業の従事者が拡大している。
 - 「津久井産木材の家」を作るネットワークが構築されている。
 - 木工品や林産物が「相模原市の名産品」として広く知られている。
 - 交通網の中心であることを活かし木材産業の拠点が市内にできている。

■地理的所在や利用状況に応じて、適正な森林の管理が行われています

- (例)
- 道路沿いの森林整備が進み、道路環境や地域景観の改善が図られている。
 - 山間部の森林整備が進み、鳥獣被害が緩和されている。
 - 希少な生物の生息場所となる森林が、適切に保全されている。
 - 伐採後の植林が進み、循環的な森林資源利用が行われている。



※5 市政モニターアンケート調査の自由回答等の記載に基づき作成

50年後の将来像である「いきいきとした森林」とは、次のようなさまざまなタイプの森林がバランスよく存在する状態です（図表11）。

図表 11：「いきいきとした森林」を構成するさまざまなタイプの森林（50年後）



都市の
森林

都市地域の住民の
憩いの場となる

里山の
森林

田んぼや畑、集落と
ともに維持・管理される

生産の
森林

木質資源の循環的な
生産の場となる

共存の
森林

多様な生きもののすみかとなり
市民の暮らしを守る

奥山の
森林

標高が高く
自然度の高い

「いきいきとした森林」の構成要素である5つのタイプの森林は、全ての森林において水源かん養機能が高まるとともに、それぞれの森林が私たち市民に次のような恩恵をもたらすことが期待されます（図表12）。

図表 12：さまざまなタイプの森林（50年後）に期待される役割

タイプ	エリア	期待される役割
都市の森林	市街地の森林	●日常生活の中で森林の憩いを与える場となる。
里山の森林	里地里山地域の森林	●薪、山菜、きのこなどの恵みを得ることができる。 ●里地里山の景観が保たれる。 ●生きもの観察や森林レクリエーションの場となる。
生産の森林	林道等の林業生産基盤のある地域の森林	●木材、木質バイオマスなどの資源を得ることができる。 ●木材産業が盛んになる。
共存の森林	林業生産基盤のない地域の森林	●希少な生物が生息する場となる。
奥山の森林	標高の高い森林	●自然度の高い環境が保たれる。 ●ハイキング等のレクリエーションの場となる。